

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和4年度第2回さがみはら地域づくり大学運営委員会				
事務局 (担当課)	市民協働推進課 電話042-769-9225(直通)				
開催日時	令和5年2月28日(火) 午後1時30分~3時				
開催場所	WEB開催(相模原市役所 第1別館1階 第2会議室)				
出席者	委員	5名(別紙のとおり)			
	その他	1名(指定管理者)			
	事務局	4名(市民協働推進課長、他3人)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由					
会議次第	<p style="margin-left: 20px;">議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度の運営状況について(追加報告) 2 令和5年度の講座内容等について 3 その他 				

主な内容は次のとおり。

議 題

- 1 令和4年度の運営状況について(令和4年度第1回運営委員会以降の追加報告)
指定管理者及び事務局より資料に基づき説明と報告を行った。

【主な意見等】

(指定管理者)

- ・ワークショップなどの共同作業により受講の満足度が高くなることから、来年度は受講生同士で繋がることのできるような講座を最初に開催する。
- ・今年度の専門講座の中には、内容は良いが時間が足りなかったとの意見もあり、来年度は長めに時間を取りたい。
- ・アンケート結果については、来年度は各項目の回答にて、最高の「大いに思う」で80%以上を目指す。
- ・修了後には、コーディネーターズサークル(CS)の活性化と、修了生の実際の活動に繋がるようなサポートができると良いと考えている。今年度4回目の交流会は3月26日に「まち探検」として、相武台へ子ども食堂や今年度の講師の活動を見学する予定である。
- ・今年度の修了生(8期)は活動が非常に活発であり、オープンチャットを立ち上げて、強いつながりをもって取り組んでいる。例えば、西門商店街の活性化プロジェクトに3名が集い、商店街の関係者や市職員とのミーティングを行っている。来年度には、子ども食堂サミットを開催したいと、今年度の講師から話があり、3月より運営委員を募集しており、CSメンバーも参加している。
- ・今年度の修了生は高校生から80歳まで幅広い世代の方に受講いただいた。市職員を目指す大学生も受講しており、2年連続で市職員採用試験の合格者が出た。また、相模女子大の教授が講師であるマーケティング講座の受講生2名が大学院の社会ビジネス科を受験し、いずれも合格し入学予定である。引き続き市と共に修了生をフォローアップしていきたい。

(水澤委員)

修了生による取組がいくつかスタートしており、修了生がサポセンに相談にくるなど、すごく良い繋がりが出来てきている。

(齊藤委員)

改めて地域づくり大学のターゲット層や、開催の曜日はどう設定しているのか。

(事務局) 60代がメインだが、高校生・大学生など若い方も参加が増えると活気もあって良い。講座は土曜日もしくは日曜日の13時半～16時半の3時間である。

(齊藤委員)土日の午後に設定していることをもっとアピールできるとよい。受講生は高齢世代が実態としては多いが、中年世代の社会貢献が増えてきている。このような年代にもアピールすれば受講生は集まるのではないか。

(竹田委員)

今年度は良い評価である。地域づくり大学は8年間継続しているが、受講生はもとも何名を目標としているのか。

(事務局)コース設定を今年度より変更しているが、第2次市民協働推進基本計画は、今年度の地域活動コースの受講者数の目標値は18名であり、実績は16名である。令和9年度には24名を目指していきたい。

(竹田委員)目標値について議論しても良いのではないか。

(中邨委員)

資料に、地域づくり大学自体の認知度がまだまだ低いとあるが、認知度を高める考えがあれば伺いたい。

(事務局)5月の受講生募集の開始時期に、図書館に特設コーナーを設置予定である。また、今年度効果のあった自治会の回覧板でも引き続き周知を行う。

(中邨委員)

ユニコムプラザさがみはらの施設自体がユニークな取組である。施設を上手く活用して若い人を取り込む仕掛けができないか。

(事務局)施設内の掲示板や、施設関連大学の学内ポータルへの募集案内の依頼も考えている。

(指定管理者)学生の取り込みについては、施設にて大学生のインターンシップを年間十数名受け入れており、今年度は地域づくり大学にも7名が運営補助として参加した。インターンシップ後に別講座を受講した学生もいる。施設の他事業とも関連しながら、認知度を上げていきたい。

(中邨委員)インターンシップの学生に地域づくり大学の受講を義務とすることは難しいのか。

(事務局)受講料を取っているため難しい。代わりとして講座運営を補助しながら、講座内容も聴けるようにしている。

(川村委員)

受講生の中から講座受講のリピーターを増やしていけると良い。

(齊藤委員)

地域づくり大学の目指す姿として、施設を利用する大学生を地域に活かすことも重要である。コース日程について、7月頭は大学の試験真っ盛りであり、真面目な大学生ほど予定を入れるのを避けるので、受講を勧めづらい。講座内容は良いので、学生が受講しにくい時期にするのはもったいない。

また、無料公開講座について、費用対効果として、受講料は無料で、200人程

度が集まるとインパクトがあって良い。自治会経由の依頼だと参加してくれる人も増えるのではないか。定員数は市の人口規模からすると50人だと少なく感じるが、受講生をじっくり育てる工夫としては良い。全体的には少しずつ改善されており、期待値が大きい。

(中邨委員長)

市長が講師として登壇して、市が今後何を考えているのかを話してもらえないか。人集めにもなる。また、市職員への周知、連携の現状はどうか。

(事務局)市職員への受講募集も周知していきたい。今年度受講した1名の職員からも、講座の中で地域の方と話せて良かったと聞いている。また、CS向けに市のイベント情報等を随時提供している。

(水澤副委員長)

市民活動支援の立場としては、団体の高齢化が進んでいるので、修了生が団体に加入したり、新たな団体を立ち上げたりすると良い。市では「50代から始める地域活動マッチング相談会」があるので活用できると良い。

(事務局)今年度は3月に開催予定であり、CSにも知らせている。

また、「地域活動入門講座」においても、来年は団体の活動を現地に見に行き体験できる講座にしたいと考えている。

(中邨委員長)

地域活動のために様々な講座を開催しているのは世界的には日本しかないということ市職員にも認識してもらいたい。来年度に向けて、引き続き講座を拡充してもらいたい。

議 題

2 令和5年度の講座内容等について

令和5年度の講座内容案について報告及び検討を行った。

【主な意見等】

(指定管理者)

来年度は講座の流れを意識して改善を考えている。コースの最初のオリエンテーションにて、自己紹介のみでなく、受講生同士でコミュニケーションを取れる講座の実施を考えている。今年度も展示物作成の共同作業の中で受講生同士が仲良くなっている。せっかく学んだことをすぐに実践したいとの声にも対応したい。

(川村委員)

来年度の基本的な考え方として、今年度をベースに改善しており、このような形で良いと感じている。

(齊藤委員)

公開講座にて、市民活動団体の PR パネルを紹介できるコーナーを設け、講座にも参加してもらうのはどうか。自治会からも声を掛けて、団体の紹介や、地域の人との交流ができる仕掛けがあると良い。

コースを通常版と短縮版に分けたことはとても良いが、短縮版の開催時期は、大学生にとっては試験やレポート提出で大変な時期であり、大学生をターゲットに入れるなら5月に公開講座、6月に開講、8月上旬に見学が望ましい。

(竹田委員)

コースの最初に市長が登壇すると良い。協力できることは一生懸命やっていきたいと思っているので、ぜひお声がけいただきたい。

(水澤副委員長)

一般の人に来てもらえる公開講座にて、団体のパネル紹介もできるとありがたい。他市で開催している「お父さんお帰りなさいパーティ」のような、団体とのマッチング講座を、地域づくり大学の中にも組み込めると良い。

(中邨委員長)

中核市以下では、都市間競争が起きている。その際に、各市長が言うのはスマートシティという発想である。例えば延岡市長は“空を飛ぶ救急車”など大風呂敷ではとも思える取組もしている。一方で相模原市は地味だと感じる。「相模原市を知る」の講座の中で、もう少し夢を見られる話もあると良い。

(事務局)本市はロボット特区であり、産業支援課の職員の登壇や、地域での災害対策としてドローンの講座なども案としては考えている。

(中邨委員長)“さがみはらビジョン”という名目のもと、2025年の大阪万博をターゲットにしながら、市は今後をどう考えているかを鮮明にすると良い。

(竹田委員)

橋本のリニアやA&Aの都市計画など、若い人なら生きている間に、実際の変化を目にすることができる。今後、実際に実現できる夢として、都市計画課やリニア担当課等による講座もあると良い。

(齊藤委員)

高校生は修了証を欲しがると感じる。単なる見学ではなく体験型の講座として、例えば1日単位でNPO体験ができて、修了証がもらえると高校生にも魅力的ではないか。

(中邨委員長)

来年度以降も引き続き学長を務めさせていただく。また、学長講演についてもぜひ引き受けたい。

(事務局)修了式にて以前のように学長からの修了証の手渡しや、講演ができればと考えている。地域づくり大学のFacebookにて、今年度の修了式の様子も載せているので、ぜひご覧いただきたい。

(指定管理者)

地域づくり大学を1年間担当しての感想を伝えたい。昨年度は50代以上のセカンドキャリアをターゲットとした講座を実施した。地域づくり大学の対象は16歳以上からであり、高校生の参加は今年度が初めてであるが、年齢、経歴が様々な受講生が並んで授業を受ける様子は、講座として唯一無二であると実際に講座を受けた中で感じたことから、現在はターゲットを絞ることは考えていない。今後、委員の方にもぜひ講座の見学に来ていただきたい。

議 題

3 その他

閉 会

以 上

さがみはら地域づくり大学運営委員会委員名簿

(令和5年2月28日開催)

	氏名	現職	備考	出欠
1	中邨 章	日本協働政策学会 名誉理事長 (地域づくり大学の学長)	委員長	出席
2	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 会長 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)		出席
3	水澤 弘子	特定非営利活動法人さがみはら市民会議 理事 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)	副委員長	出席
4	齊藤 ゆか	神奈川大学 教授 (講座の各分野における関係者)		出席
5	川村 彰	市民局長 (市職員)		出席